

学問のすすめ

福沢 諭吉

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず。」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の靈たる身と心とのはたつきをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめたまうの趣意なり。されども今、広くこの人間世界を見渡すに、賢き人あり、愚かなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、そのありさま雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。その次第甚だ明らかなり。『実語教』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり。」とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによって出て来るものなり。また世の中にむつかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむつかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。全て心を用い、心配する仕事はむつかしくして、手足を用いる力役はやすし。ゆえに医者、学者、政府の役人、または大なる商売をする町人、あまたの奉公人を召し使う百姓などは、身分重くして貴き者というべし。

身分重くして貴ければおのずからその家も富んで、下々の者より見れば及ぶべからざるようなれども、そのもとを尋ねればただその人に学問の力あるとなきとによってその相違も出て来た

るのみにて、天より定めたる約束にあらず。諺にいわく、「天は富貴を人に与えずして、これをその人のほたらきに与うるものなり。」と。されば前にもいえるとおりの、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。

学問とは、ただむつかしき字を知り、解しがたき古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学をいうにあらず。これらの文学もおのずから人の心を喜ばしめ、ずいぶん調法なるものなれども、古来、世間の儒者・和学者などの申すよう、さまであがめ貴むべきものにあらず。古来、漢学者に世帯持ちの上手なる者も少なく、和歌をよくして商売に巧者なる町人もまれなり。これがため心ある町人・百姓は、その子の学問に出精するを見て、やがて身代を持ち崩すならんとて親心に心配する者あり。無理ならぬことなり。畢竟その学問の実に遠くして日用の間に合わぬ証拠なり。

されば今、かかる実なき学問はまず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。例えば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言、帳合の仕方、算盤の稽古、天秤の取り扱いは等々を心得、なわまた進んで学ぶべき箇条は甚だ多し。地理学とは日本国中はもちろん世界万国の風土道案内なり。究理学とは天地万物の性質を見て、そのほたらきを知る学問なり。歴史とは年代記のくわしきものにて万国古今のありさまを詮索する書物なり。経済学とは一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものなり。修身学とは身の行いを修め、人に交わり、この世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり。

これらの学問をするに、いずれも西洋の翻訳書を取り調べ、たいいていのは日本の仮名にて

3 【物を資り】物資を利用すること。
7 【実語教】平安時代から明治時代初期にかけて普及した、庶民のための教訓を中心とした初等教科書。
11 【奉公人】他人の家に仕えて働く人。召し使い。
13 【及ぶべからざる】かなわないであろう。到達できずうにもない。
14 【もとを尋ねれば】もとをたせば。「尋ね」は現代語の「尋ねる」にあたる。

8 【儒者】儒学を研究し、その教えを説く人。儒学者。
8 【和学者】日本の文学、歴史などを研究する学者。
8 【さまで】それほどまでに。
9 【漢学者】中国の学術、儒学を研究する学者。
9 【世帯持ち】一家をかまえて生活している人。所帯持ち。また、所帯のやりくり。
9 【和歌をよくして】和歌に秀でていて。
10 【出精】物事に励むこと。精を出すこと。
10 【身代を持ち崩すならん】家の経済が立ち行かなくなるのではないか。
11 【畢竟】結局。要するに。
14 【帳合】簿記。
14 【天秤】はかり。
16 【究理学】広義の物理学。

用を便じ、あるいは年少にして文才ある者へは横文字をも読ませ、一科一学も実事をおさえ、そのことにつきそのものに従い、近く物事の道理を求めて今日の用を達すべきなり。右は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく、皆ことごとくたしなむべき心得なれば、この心得ありて後に、士農工商おのおのその分を尽くし、めいめいの家業を営み、身も独立し、家も独立し、天下国家も独立すべきなり。

〈出典 『福沢諭吉全集第三卷』（岩波書店、一九六九年）〉

【著者】福沢諭吉（いくざわゆきち）

一八三五（天保五）年—一九〇一（明治三四）年
思想家、教育家。大阪府の生まれ。

【著書】『西洋事情』『福翁自伝』『文明論之概略』など